



●生まれてきたのは父、母の恩があつてこそ

本日、お話しさせていただくのは報恩感謝の心についてであります。父母への孝養とはどういうことか。具体的には現孝と追孝があります。報恩、謝徳の生き方を私たちはしていかなければならないのです。法然上人は御法語で述べておられます。

『わが身 人となりて往生を願ひ念仏することは偏にわが父母の養いたればこそあれ』。人間に生まれてきたのも父母の御恩であり、いま、出家して南無阿弥陀仏と念仏申すのも、父母の御導きで、小さき時より養つていただいた御恩による、と。

この写真は、法然上人（勢至丸さま）が母の元を離れて修行に出たあと、誕生寺で勢至丸さまの無事を祈る姿を彫像にしており、寺庭婦人会が寄贈された像です。写真Ⅱ。

この母の思いを受けとめて、法然上人は御法語にされたのです。「私が人間になって生まれたのも、極楽に生まれたいと願つたのも、父母の思いがあるからこそ」というわけです。

皆さまはいかがでしょう。『咲いた花見て喜ぶならば 咲かせた根元の恩を知れ』。ご両親に見守つて育てられたこと、実際に皆さま、なかなか気づきにくいことですね。

少し自己紹介をしておきますと、私は大阪の法善寺の住職をしております。法善寺には水掛不動尊があり、恋愛成就のパワースポットでもあります。私も恋愛結婚で子どもは4人授かりました。男の子3人と女の子1人。男の子は縁あつて全て僧

法話

報恩感謝の心

～父母への孝養(現孝・追孝)

総本山知恩院執事
同 おてつぎ運動本部 副本部長

神田眞晃



2月14日に開かれた「おてつぎ文化講座」の要旨を採録しました。



神田眞晃（かんだ しんこう）

1954（昭和29）年、大阪市生まれ。1999（平成11）年から大阪教区・法善寺住職。総本山知恩院布教師会参与。2023（令和5）年2月から知恩院執事、おてつぎ運動本部副本部長。